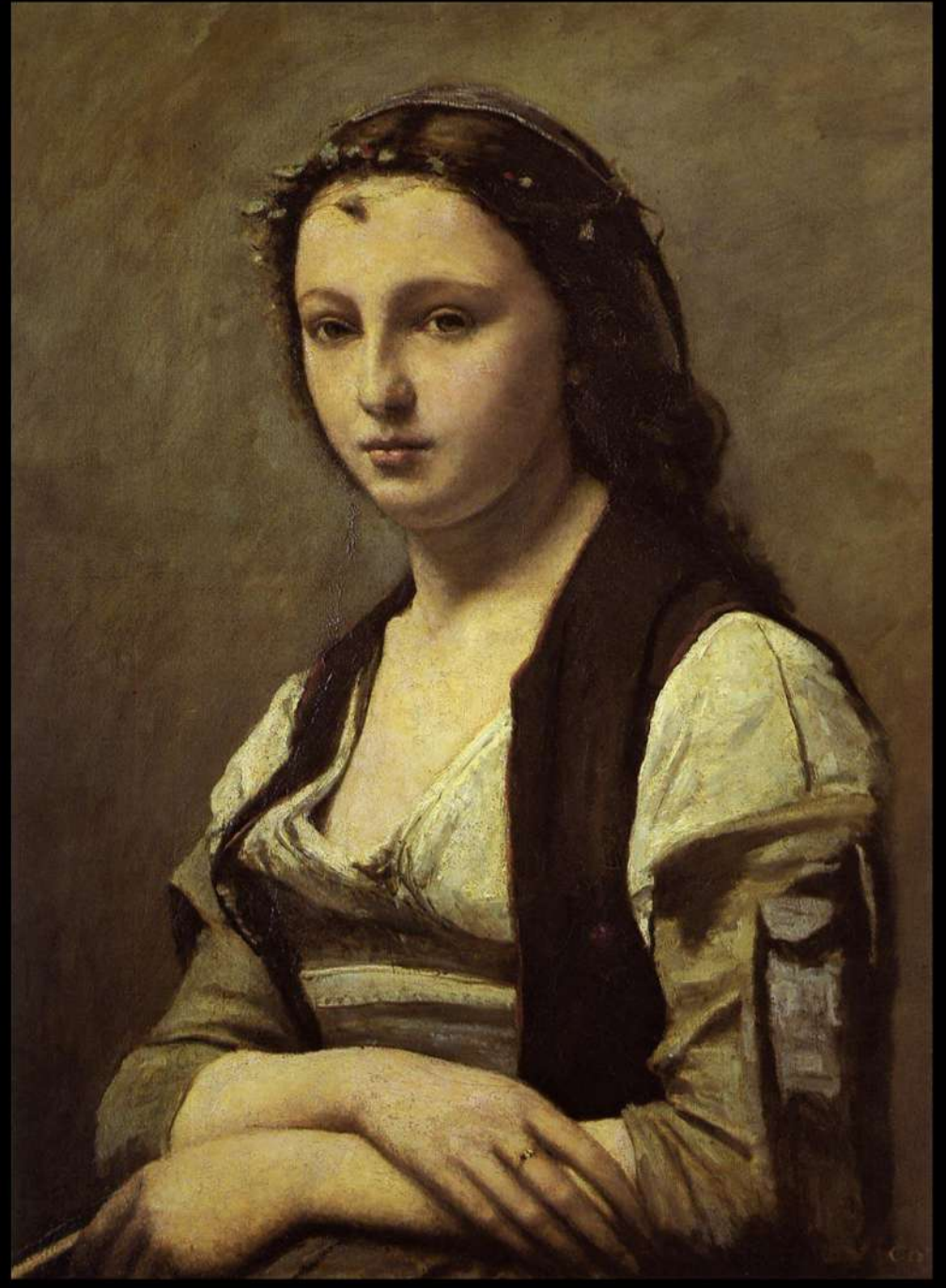


Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー (1796-1875)



作品名 風景



Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロ（1796-1875）



作品名 風景

種類 キャンバス・油彩

サイズ 35.0×24.5cm (仏4号)

※ 左下にサインあり

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。

1825年29歳から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はのちの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと思い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コロはクールベを頂点とするレアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコロはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかの様に、思い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

この作品はコロの夢想的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン = バティスト・カミーユ・コロー (1796-1875)



作品名 ワジェ通り

種類 エッチング

サイズ 39.6×43.0cm

彫師 ジャナン Frederic=Emile JEANNIN(1859-1925)

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。

1825年29歳から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はこの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと思い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コローはクールベを頂点とするレアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコローはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかの様に、思い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

この作品はコローの夢幻的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン = バティスト・カミーユ・コロー (1796-1875)



作品名 夕景

種類 エッチング

サイズ 18.7×26.2cm

彫師 テオフィル・ショヴェル作 Theophile hauvel*(1831-1909)

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。

1825年29歳から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はこの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと思い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コローはクールベを頂点とするレアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコローはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかの様に、思い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

この作品はコローの夢想的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロ（1796-1875）



作品名 Toscanaの思い出

種類 エッチング 1875年作

サイズ 12.3×17.7cm

DE L'ART C-1(Gazette des beaux-Arts)の為の刷り

コロのエッチング作品は非常に数が少ないです。

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。1825年29歳から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はのちの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと思い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コロはクールベを頂点とするレアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコロはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかの様に、思い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

この作品はコロの夢想的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー



世界の文化遺産

作品名 小さな羊飼いの家(1855年作)

種類 ガラス・ステロ版

サイズ 34×26cm

※DE L'ART C50

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。1825年から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はのちの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと思い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コローはクールベを頂点とするリアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコローはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかの様に、思い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

この作品はコローの夢想的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン = バティスト・カミーユ・コロ



作品名 イタリアの思い出

種類 エッチング

※コロオリジナル作品

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。

1825年29歳から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はこの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと思い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コロはクールベを頂点とするレアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコロはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかのように、思い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

この作品はコロの夢幻的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界

コロのエッチングは非常に数が少ないです。

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン = バティスト・カミーユ・コロ



作品名 平原で立ち止まる馬

種類 エッチング

サイズ 12.3×17cm

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。1825年29歳から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はこの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと思い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コロはクールベを頂点とするレアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコロはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかの様に、思い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

この作品はコロの夢幻的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界

コロのエッチングは非常に数が少ないです。

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロ



作品名 ホラティウスの庭園(1855年作)

種類 ガラス・ステロ版

サイズ 35.6×27.3cm

※DE L'ART C58

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。1825年から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はのちの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと思い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コロはクールベを頂点とするリアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコロはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかの様に、思い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

この作品はコロの夢幻的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー



作品名 森の中の大きな騎手 (1854 年作)

種類 ガラス・ステロ版

サイズ 28.3×22.5cm

※DE L'ART C46

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。1825年から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はのちの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと想い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コローはクールベを頂点とするリアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコローはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかの様に、想い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

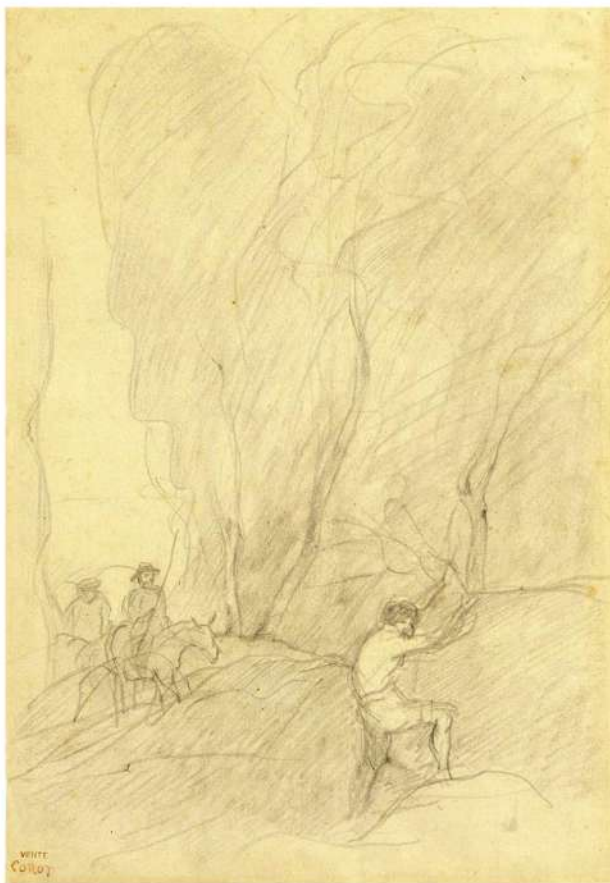
この作品はコローの夢想的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界

Jean-Baptiste Camille Corot

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー(1796-1875)



作品名 風景

種類 紙に鉛筆

サイズ 43.5×28.3cm

略 歴

パリの裕福な家庭に生まれ、19世紀の4分の3を生き、新古典主義的、ロマン主義的、写実主義的、印象主義的と呼ばれ19世紀フランス美術の特徴を全て持ち合わせ、次世代の印象派との橋渡しをした画家である。

詩情あふれる森や湖の風景画で知られるが、『真珠の女』のような人物画にも傑作がある。

1825年29歳から計3度イタリアへ旅行し、イタリア絵画の明るい光と色彩にも影響を受けている。理想化された風景でなく、イタリアやフランス各地のありふれた風景を詩情ゆたかに描き出す手法はのちの印象派の画家たちにも影響を与えた。1855年の頃より現実と幻想が銀灰色の霧の中で交錯、甘美なノスタルジーを醸し出している作品を発表し始めて1864年のモルトフォンテーヌの思い出の作品の発表にと思い出と言う内的な世界を導入し、風景をより生き生きと蘇らせて人間の係り合いを強く感じさせる作品にしている。このように、コローはクールベを頂点とするリアリストの画家達が脚光を浴び、同時代の画家達が戸外で描くことに熱中している時期にコローはあたかも次の時代の画家達の出現を予告するかの様に、思い出の世界を絵画の世界に持ち込んで行ったのである。

1822年古典的風景画家ミシャロン、ベルダンについて学ぶ。

1825年最初のイタリア旅行をする

1827年サロンに初出品

1828年イタリアより帰国

1829年ノルマンディ・ブルターニュ・フォンテーヌブローに滞在

1831年サロンで二等賞

1834年二回目のイタリア旅行

1836年ラヴィエと共にオーヴェルニュに滞在している

1846年レジオン・ドヌール勲章を受けた

1848年サロンの審査委員に選出される

1855年パリ万国博覧会大美術展で作品6点出品。一等賞を獲得

1864年モントホンテーヌの思い出を発表 現在、ルーブル美術館所蔵

この作品はコローの夢想的な作品の中でも最も優れた作品

1873年フォンテーヌブローに最後の滞在

1875年ミレーの死の一ヶ月後に他界